

もり た ご ろう  
**森田吾郎**

森田吾郎 (1874 ~ 1952)  
出典：『大正琴の世界』1995年

## 天賦の音楽の才能と手先の器用さ —大正琴の生みの親—

森田吾郎は1874(明治7)年、名古屋芸事を中心地であった名古屋大須門前町の旅館「森田屋」の長男として生まれた。本名は川口仁三郎で旅館の屋号から通称森田吾郎と名乗っていた。幼児から利発で音楽の才能に恵まれ、手先が器用でものづくりが得意な少年であった。

### ■大正琴を生み出すきっかけとなった欧米への演奏公演

14歳頃から中国から伝来した横笛である明笛や二弦琴の演奏を日本国内で始めた。25歳の時、明笛一本を携えてニューヨーク、ロンドン、パリ、インド、香港、上海などを2年ほどかけて回り演奏活動を続け、異国の音楽文化のレベルの高さに衝撃を受けた。

当時、日本では学校でオルガンやピアノなどの洋楽器を使い唱歌を学ぶが、家庭で復習しようと思っても楽器がない。学校と家庭と音楽環境が違うのでは音楽界の発展はない。そこでだれでも気軽に安価に洋楽の復習ができる楽器を造りたいと考えた。

### ■タイプライターからヒントを得て大正琴を発明

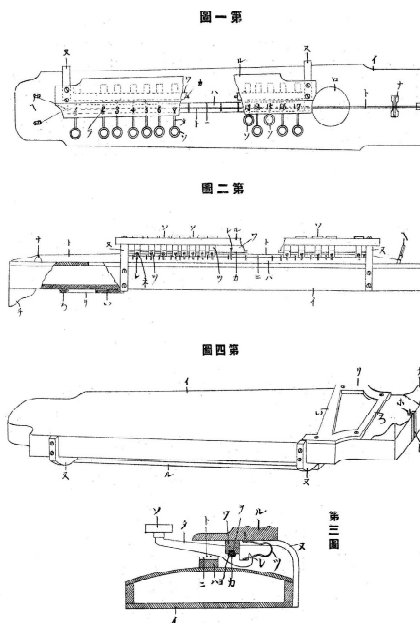
1912(大正元)年、森田吾郎は演奏旅行中にタイプライターを見て、二弦琴を基本にボタン装置を組み合わせた鍵盤付き弦楽器「大正琴」を完成させた。

1912(大正元)年9月9日に全国で一斉販売され、重陽の節句であったことから「菊琴」と名付けられた。その後、この洋楽と邦楽を折衷した楽器が「大正琴」の名で親しまれ、子どもからお年寄りまで演奏できることから日本の楽器に成長した。

### ■「大正琴発祥の地」の碑

大正琴は手軽さもあって日本中に広まり、一人で弾く楽器からグループで合奏を楽しめる楽器に大きく変わりポピュラーな楽器となった。そして1985(昭和60年)に「大正琴発祥の地」の碑が全国大正琴愛好会により大須観音境内に建立された。

(寺沢安正)

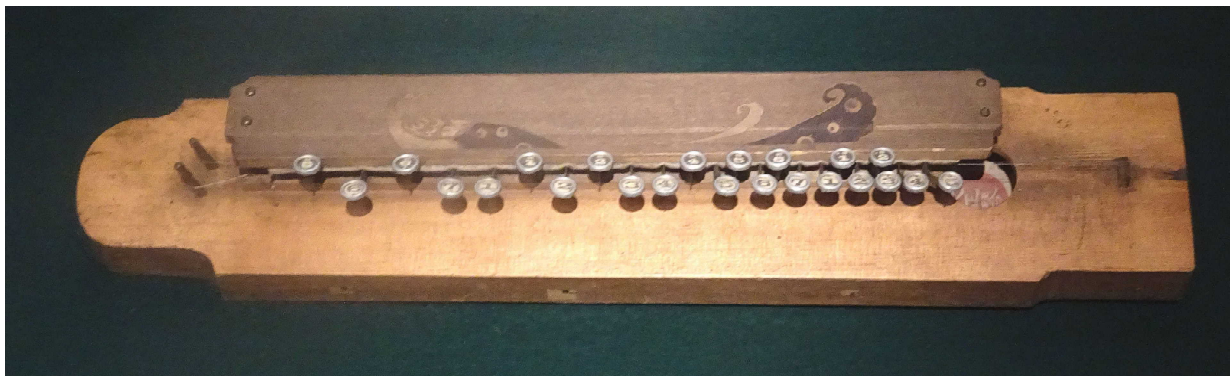


第二六一四九號  
大正琴

川口仁三郎の大正琴の実用新案の図  
出典：実用新案登録 第26149号 (1912年)



「大正琴発祥の地」の碑



大正期に作られた大正琴

浜松市楽器博物館所蔵